

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2017No.50】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ヨハン・パッヘルベル

曲名：4月の嵐他

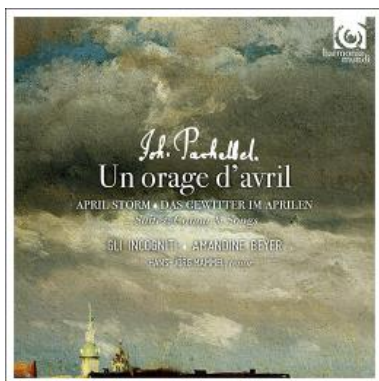
演奏：ハンス・イエルク・マンメル (テノール) ・アマンディーヌ・ベイエ／リ・インコーニティ

発売：King International

No. : KKC56460

概要：

アマンディーヌ・ベイエとリ・インコーニティの演奏会に行って買い求めてきたものです。



収録曲は以下のとおりです。

- 1-4. 「音楽の喜び」より パルティータ第5番ハ長調 P374
5. いかにもき、ああ、いかに空しき人の人生よ P500
- 6-11. 「音楽の喜び」より パルティータ第2番ハ短調 P371
12. 4月の嵐 P75
- 13-18. 「音楽の喜び」より パルティータ第6番変ロ長調 P375
- 19-26. 組曲4声のパルティータ ト長調 P450
27. 我が命とその十字架 P360
- 28-33. 「音楽の喜び」より パルティータ第3番変ホ長調 P372
- 34-38. 「音楽の喜び」より パルティータ第4番ホ短調 P373
39. 善良なヴァルター、我らの市参事会員 P180
- 40-45. 「音楽の喜び」より パルティータ第1番ハ長調 P370a
46. おお、偉大なムーサの光 P391
- 47-48. カノンとジグ P37

ハンス・イェルク・マンメル（テノール）が 5,12,27,30,46 に入り、ヴァイオリンはアマンディーヌ・ベイエの演奏です。

ネット上に見られた解説は次のとおりです。

「アマンディーヌ・ベイエ率いる古楽アンサンブル、リ・インコーニティによるパッヘルベルの作品集。パッヘルベルといえば、本アルバム最終曲として収録されている『カノン』が大変有名で、世界中で親しまれています。この曲は本来 3 本のヴァイオリンと通奏低音による「カノンとジグ」が対になった作品。軽快なテンポと 3 声部の絡みが立体的な色彩を構築し、素晴らしい手腕で対位法、カノン進行を処理しており、まさに彼の代表作と言える楽曲です。

パッヘルベルは現代では「癒し」の音楽の代表のような扱いですが、アイゼナハ、エルフルト、シュトゥットガルト、ニュルンベルクなどで教会・宮廷オルガニストとして活躍、バッハ以前のドイツの作曲家として最も重要な人物の一人です。室内楽曲のうち最も重要な作品が、1695 年ニュルンベルクへ移ってから出版された『音楽の喜び』。この曲集は、2 つのヴァイオリンと通奏低音による 6 つの組曲からなっています。組曲はソナタと一連の舞曲からなり、その多くがフランス風様式で書かれ、特に第 4,5 番は壮大なシャコンヌで締めくくられており、ドイツの語法から離れていった手法がうかがえます。ベイエ&リ・インコーニティの演奏はタイトル通り音楽の楽しさを表現するような、明るく生き生きとした演奏を聴かせてくれます。また、テノールのハンス・イェルク・マンメルを迎え、アリアが組曲の間に収録されています。パッヘルベルのアリアのほとんどは、祭典、洗礼、葬式、新年などの特別な行事のために書かれたもので、艶やかな独唱が響き渡る作品です。」

上記の収録曲のうち、下記が演奏会でも演奏されました。

1-4. 「音楽の喜び」より パルティータ第 5 番ハ長調 P374

6-11. 「音楽の喜び」より パルティータ第 2 番ハ短調 P371

19-26. 組曲 4 声のパルティータ ト長調 P450

34-38. 「音楽の喜び」より パルティータ第 4 番ハ短調 P373

47-48. カノンとジグ P37

EMT981 からの CD 再生は、かなり演奏会の演奏の印象に近いものです。調弦を通常の GDAE の調弦から、それ以外の調弦をしたソコルダトゥールダ奏法に替えた奏法の曲も聴いてきた印象に近いものです。

パッヘルベルのカノンは他の演奏でもよく聴くものですが、オーソドックスな演奏スタイルで好感が持てます。

なお、この CD にはコードがついていて、harmoniamudi の HP から 44.1KHz24bit の FLAC 音源がダウンロードできます。